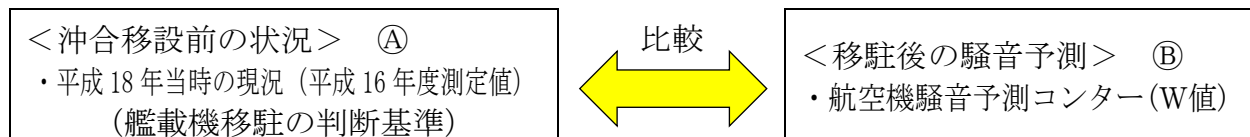


# 空母艦載機移駐後の岩国基地周辺における航空機騒音の状況

平成 31 年 4 月

## 1 艦載機移駐判断時の騒音の検証（平成 18 年 2 月、6 月及び平成 29 年 3 月）

- 国から示された沖合移設前の状況（平成 18 年当時の現況）**①**と移駐後の騒音予測**②**との比較により、基地周辺住民の生活環境が悪化する状態が生じるかどうかを分析・検証し、「地域により差はあるものの、全体として悪化するとはいえない」と整理した。
- ※ 岩国基地の滑走路は、基地東側約 1 km 沖合に移設された（平成 22 年 5 月運用開始）。



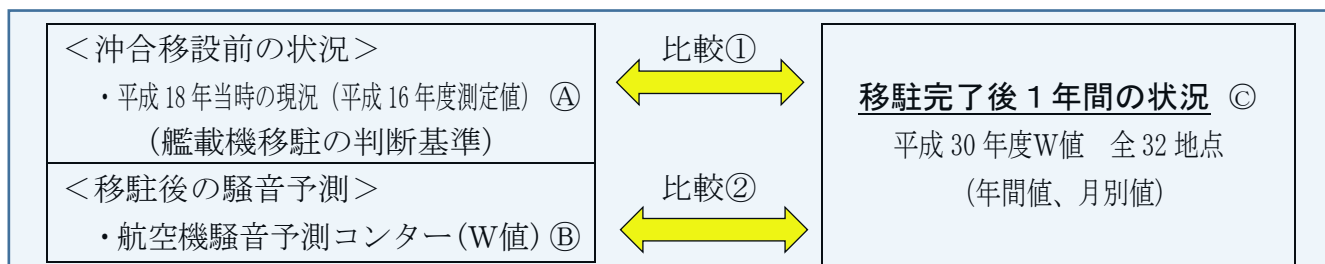
※ 騒音の評価指標：うるささ指数 W 値（年間値）

## 2 移駐完了後の騒音の検証（平成 31 年 4 月）

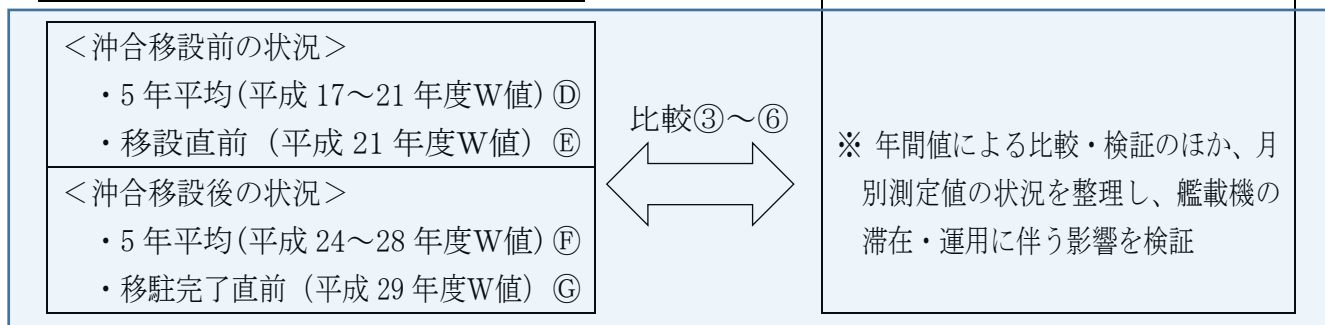
### （1）年間（月別）測定値を活用した騒音の状況の検証

- 移駐判断時の経緯や艦載機の滞在・運用に係る一定のパターンを踏まえ、移駐完了後 1 年間の騒音の状況（H30 年度 W 値）**③**について、以下の比較（**①**～**⑥**）により検証を行う。

#### 移駐判断時の検証結果との比較



#### 上記検証の補足及び移駐完了後の影響



### （2）測定地点毎の状況の検証

- 艦載機の滞在・運用による影響の検証について、比較可能な地点は以下のとおり

区 分		比較可能 地点数		備考
		うち県内		
沖合移設前の状況（平成 18 年当時の現況） <b>①</b>		5 地点	5 地点	移駐判断時の 検証結果との 比較
移駐後の騒音予測（航空機騒音予測コンター） <b>②</b>		2 8	2 3	
移 設 前	5 年平均（平成 17～21 年度） <b>④</b>	1 2	1 1	上記検証の 補足及び移 駐完了後の 影響
	移設直前（平成 21 年度） <b>⑤</b>	2 4	1 9	
移 設 後	5 年平均（平成 24～28 年度） <b>⑥</b>	2 5	2 0	
	移駐完了直前（平成 29 年度） <b>⑦</b>	2 8～3 0	2 3～2 5	

### (3) 騒音の評価指標

- 航空機騒音の総合的な評価指標である「W値」による整理を基本とする。

### 3 空母艦載機移駐後の状況

移駐完了後、空母艦載機着陸訓練（FCLP）前後の4月と5月には、航空機騒音が増大し、住民生活に大きな影響を及ぼした。

#### <艦載機移駐後の滞在・運用状況>

月日	主な運用状況	地元への影響等
平成30年3月末		○ 艦載機(約60機)の移駐完了(配備機数約120機)
4～5月	FCLP前に実施された訓練(岩国周辺)	○ 騒音の増大(9割の地点で月別最高値を記録) 地元市町に対する多数の苦情(岩国市 約27件/日)
5月3日～25日	FCLP(実施場所:硫黄島)	○ FCLP予備施設の当初指定期間(~5/13)満了後、米軍の運用上の理由に伴う訓練延期・指定延長
5月30日～6月3日	CQ(実施場所:九州沖(岩国基地を拠点に実施))	○ 夜間離着陸等による騒音の発生、市に対する多数の苦情(岩国市:5日間290件、うち時間外運用4件)
6月4日～7月21日 8月18日～11月27日		○ 艦載機が岩国を離れ、騒音・苦情は減少 岩国市に対する苦情が半減(約13件/日)
11月28日(～現在)		○ 艦載機が岩国に帰還(滞在中)

#### <空母の横須賀入港状況(艦載機の岩国滞在状況)>

- 平成30年度の空母の横須賀入港日数は189日であり、平成16年度(騒音予測の基となる騒音度調査の時点)の実績と比較すると、やや少ない日数となっている。

区分	平成30年度	平成16年度	過去10年平均
空母の横須賀入港状況	189日	207日	201日

#### <空母着艦資格取得訓練(CQ)の実施状況>

- 5月30日から6月3日までの間、九州沖でのCQの実施に伴い、岩国基地において、下表のとおり夜間離着陸が行われ、31日と1日には、8機の時間外運用(着陸)が確認された。

	5/30(水)	5/31(木)	6/1(金)	6/2(土)	6/3(日)
最終離着陸時刻(岩国)	18:05 着陸	23:45 着陸	翌0:11 着陸	22:41 離陸	22:56 離陸
うち時間外運用の有無	なし	<b>時間外運用あり(計8機)</b> 着陸1機		なし	なし
時間外の騒音発生状況	—	識別なし(全地点)	23:12 識別なし(全地点) 23:24 識別なし(全地点) 24:03 尾津町 76.7dB 24:05 尾津町 77.5dB 24:06 尾津町 71.5dB 24:10 尾津町 75.0dB 24:11 尾津町 77.0dB	—	—
岩国市への苦情件数(時間外運用に伴うもの)	21件(0件)	41件(0件)	117件(4件)	56件(0件)	55件(0件)

#### 4 移駐完了後の騒音の検証

##### (1) 移駐判断時の検証結果との比較

###### ア 沖合移設前の状況（平成18年当時の現況）との比較 (①) 全ての地点で減少

測定地点(全5地点)	沖合移設前の状況（平成18年当時の現況） <sup>㉑</sup> との比較結果
岩国市三笠町、旭町、川口町、尾津町、由宇町	平成30年度の年間W値 <sup>㉒</sup> は、 <u>比較可能な5地点のうち全ての地点で減少</u> している。

○ 平成30年度の月別のW値は、比較可能な5地点において、全ての月で減少している。

###### イ 航空機騒音予測コンター（W値）との比較 (②) 9割の地点で予測の範囲内

測定地点(全28地点)	航空機騒音予測コンターW値 <sup>㉓</sup> との比較結果
岩国市、柳井市、周防大島町、和木町等	平成30年度の年間W値 <sup>㉒</sup> は、 <u>比較可能な28地点のうち26地点において予測の範囲内</u> に収まっている。

○ 平成30年度の月別のW値は、比較可能な28地点中23地点では、全ての月で予測範囲内となっている。

<参考：騒音予測コンターW値と比較し、大きく減少（増加）した地点>

区分	測定地点名（年間W値 <sup>㉒</sup> の増減幅）
減少	・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">基地西側</span> 岩国市門前町（▲18）、車町（▲9）
	・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">" 北西</span> 和木町瀬田（▲21）、岩国市装束町（▲10）等
増加	・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">" 北側・北東（飛行ルート近辺）</span> 廿日市市2地点(宮島・八坂) (+2~6)

##### (2) 移駐完了後の影響

###### ア 沖合移設前との比較

###### a 沖合移設前5年平均(平成17~21年度)との比較 (③) 8割の地点で減少

測定地点(全12地点)	沖合移設前5年平均(平成17~21年度)W値 <sup>㉔</sup> との比較結果
岩国市三笠町、旭町、川口町、尾津町、由宇町等	平成30年度の年間W値 <sup>㉒</sup> は、 <u>比較可能な12地点のうち10地点で減少</u> している。

○ 平成30年度の月別のW値は、比較可能な12地点中9地点では、全ての月で減少しているが、滑走路北側等では多くの月で増加している。

<参考：沖合移設前5年平均W値と比較し、大きく減少（増加）した地点>

区分	測定地点名（年間W値 <sup>㉒</sup> の増減幅）
減少	・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">基地西側</span> 岩国市門前町（▲11.6）、車町（▲7.2）等
増加	・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">" 北側・北東（飛行ルート近辺）</span> 滑走路北側 (+2.9)、大竹市阿多田島 (+4.1)

b 沖合移設直前年度（平成 21 年度）との比較（④） 6 割の地点で減少

測定地点(全 24 地点)	沖合移設直前（平成 21 年度）W 値⑤との比較結果
岩国市、周防大島町、和木町等	平成 30 年度の年間 W 値⑥は、 <u>比較可能な 24 地点のうち 15 地点で減少</u> している。

- 平成 30 年度の月別の W 値は、比較可能な 24 地点中 11 地点では、全ての月で減少しているが、岩国市装束町、周防大島町三蒲等では多くの月で増加している。

イ 沖合移設後との比較

a 沖合移設後 5 年平均（平成 24～28 年度）との比較（⑤） 8 割の地点で増加

測定地点(全 25 地点)	沖合移設後 5 年平均（平成 24～28 年度）W 値⑥との比較結果
岩国市、周防大島町、和木町等	平成 30 年度の年間 W 値⑥は、 <u>比較可能な 25 地点のうち 19 地点で増加</u> している。

- 平成 30 年度の月別の W 値は、4 月と 5 月は比較可能な 25 地点のうち 23 地点で増加していたが、7～10 月までは減少地点が多くなっている。11 月から 2 月までは再び増加地点が多くなっている。
- 岩国市門前町（基地西側）では全ての月で減少している。

<沖合移設後 5 年平均と比較し減少（増加）幅が大きい測定地点>

区分	測定地点名（年間 W 値⑥の増減幅）
減少	・ <span style="border: 1px solid black; padding: 1px;">基地西側</span> 岩国市門前町（▲7.0）
	・ <span style="border: 1px solid black; padding: 1px;">" 北西</span> 和木町瀬田（▲2.5）、大竹市（▲7.9）
	・ <span style="border: 1px solid black; padding: 1px;">" 南側</span> 周防大島町久賀（▲1.3）等
増加	・ <span style="border: 1px solid black; padding: 1px;">" 西側</span> 岩国市車町（+4.3）
	・ <span style="border: 1px solid black; padding: 1px;">" 南西</span> 岩国市尾津町（+4.2）、青木町（+2.2）
	・ <span style="border: 1px solid black; padding: 1px;">" 北西</span> 岩国市新港町（+4.1）、旭町（+4.0）、川口町、三笠町（+3.8）、装束町（+3.2）
	・ <span style="border: 1px solid black; padding: 1px;">" 南側（飛行ルート近辺）</span> 周防大島町三蒲（+2.3）、浮島（+2.5）
	・ <span style="border: 1px solid black; padding: 1px;">" 北側・北東（飛行ルート近辺）</span> 滑走路北側（+3.6）、大竹市阿多田島（+3.2）

b 移駐完了直前年度（平成 29 年度）との比較（⑥） 8 割の地点で増加

測定地点(全 28 地点)	移駐完了直前（平成 29 年度）W 値⑥との比較結果
岩国市、柳井市、周防大島町、和木町等	平成 30 年度の年間 W 値⑥は、 <u>比較可能な 28 地点中 21 地点で増加</u> している。

- 平成 30 年度の月別の W 値は、4 月から 8 月までの間、比較可能な 28 地点のうち、6 割を超える地点（17～26 地点）で増加している。9 月と 10 月は 9 割の地点（26～27 地点）で減少し、11 月から 2 月までは再び増加地点が多くなり、3 月は全地点で減少している。

## 5 移駐完了後の騒音の検証結果

### 《移駐判断時の検証結果との比較》

- 平成30年度の年間W値は、平成18年当時の現況を全ての騒音測定地点で下回るとともに、9割の地点（28地点中26地点）で騒音予測コンターのW値以下であることから、当初の予測の範囲内であることを確認した。

### 《移駐完了後の影響》

- 移駐完了後の騒音の状況を地域別にみると、基地西側（岩国市門前町）や北西（和木町瀬田等）の測定地点において減少する一方、基地周辺（岩国市尾津町、新港町等）や航空機の飛行ルート近辺（周防大島町三蒲、浮島等）等では増加している地点がある。
- 月別にみると、艦載機の滞在・運用に大きく影響を受けており、艦載機が岩国を離れた7月から10月までの間は概ね減少したものの、4月と5月や帰還した11月以降は概ね増加している。
- 特に、FCLP前後の4月と5月には、9割の地点（32地点中28地点）で月別最高値を記録するなど広範囲にわたり騒音が増大し、住民から地元市町に対して多数の苦情が寄せられており、基地周辺の住民生活に影響を及ぼしている。
- また、5月下旬から6月上旬にかけて実施されたFCLP後のCQでは、岩国基地滑走路の時間外運用に伴う影響は、必ずしも大きなものではなかったものの、主に夜間における多数の離着陸等により、地元岩国市に対し、多数の苦情が寄せられている。

- 上記のとおり、騒音の発生は、日々の米軍機の運用に影響を受けるものであり、引き続き、県と地元市町が連携して、騒音や飛行運用の実態把握に努める必要があると考えられる。